

双葉西小だより

令和3年12月 8日 文責 学校長 平塚 克人



今年度前期の振り返り 第2回学校運営協議会



去る11月11日(木)に第2回学校運営協議会を開催いたしました。学校から今年度前期の成果と課題、学校応援団活動実績、主な学校行事の変更、GIGAスクール構想の進捗状況、いじめ・不登校の様子等を中心に報告させていただきました。会員の皆様から具体的にいただいたご質問と学校側からの回答、またご意見の一部を紹介します。

① Q：市内小中学校では今年度、オンライン授業については希望する家庭のみコンピュータの持ち帰りをすることとしているが、西小で

は家庭でオンライン授業を行っている児童はいるか。A：毎日ではないが、今のところ1名がコンピュータを持ち帰り、授業ということに興味をおかずに、学級の様子を見てもらったり仲間とのコミュニケーションを図ったりするなどして、家庭と学校とのつながりを保つために使用している。

② いじめ・不登校については、当事者以外の情報共有が大事ではないか。そうすることで周りからの理解を得たり、解決策を見出しやすくなったりすると思う。

③ 不登校の数は昨年度よりも増えている。全国的にも増えているようだ。学校以外の楽しみ(ゲームやYouTube等)やコロナ禍における制限があったり、学校に行く意味が分からないと考える子どもも増えてきたりしている。最近では山梨でもオルタナティブスクール等多様な学校もできてきている。保護者の価値観も多様化している。西小独自の不登校の傾向が出てきたら、それに対応が必要ではないか。

④ 照明のLED化が進めば、今後普通の蛍光灯がなくなるかもしれない。LEDは蛍光灯とは性質が違うので、LED化する場合、LED化の計画は余裕をもって行ってほしい。

⑤ Q：1人1台端末導入により、保管庫設置のため教室の床面積が狭まったり、机の上にタブレットPCを置くことで机の上が狭くなったりする。もう少し広い机が必要ではないか。A：机は狭くなる。ただ教室が狭いので机を大きくすると違う問題も出てくる。

個別懇談へのご協力、ありがとうございました。

11月25日(木)から4日間にわたりまして個別懇談を実施しました。平日のお忙しい中、保護者の皆様にご来校いただき、学校と家庭が情報を共有し、お子さんのよりよい成長を目指す良い機会となりました。今後もお子さんが話す学校の話題に耳を傾けたり、成果や活躍をほめたりしながら、お子さんの更なる成長を見守っていただきたいと思います。家庭と学校、そして地域の皆様の三者で未来ある子供たちを育てていきましょう。



晩秋を彩る玄関前のイロハモミジ

暦の上では昨日が大雪でしたので、秋にもどってしまいますような話題で大変恐縮ですが、本校の玄関前には日本の紅葉を代表するイロハモミジの木があります。毎年秋には見事に真っ赤に色づき、秋の深まりを感じさせてくれます。今年も11月中下旬に、その色鮮やかな姿を見せてくれました。野山の錦と共に双葉西小にも、「もうすぐ冬がやってきますよ。」というメッセージを届けてくれているような気がします。本校の移りゆく季節を感じる大変素敵な景色になりました。

ふたば、みどり、さくら校外学習

ふたば、みどり、さくらの3学級が校外学習で「南アルプス乗馬センター」と「御勅使南公園」に出かけました。小春日和の大変穏やかな中で秋を満喫できました。



1・2年マット運動

今年度も低学年のマット運動指導のために保坂さんが来てくださいました。



3年総合的な学習

来年度総合の学習が始まる2年生に、双葉地区に興味をもってもらうことを目標に学習を進めています。この日は生涯学習文化課の長谷川さんから学区内の名所等の説明がありました。



4年印章彫刻体験

県印章店協同組合の皆様のご指導により、自分の名前から1文字を篆刻しました。



火災を想定しての避難訓練から

学校で一番火を使う場所ということで、家庭科室から出火したという想定で先月22日（月）に行われました。防火シャッター・防火扉も閉められ、日常の校舎内の様子とは違ったため、実際に火災が起きたときのことを想像しながら避難した子供たちもいたことでしょう。詳しくは本校HPのブログをご覧ください。

吹き上げるように燃える炎も恐ろしいのですが、火災で一番恐ろしいのは煙を吸ってしまうことだと言われます。火災の煙に含まれている一酸化炭素や有毒ガスで急性中毒になって大切な命を落としてしまうということも聞きます。火災に遭ってしまった場合でも安全で的確に避難するためには、子供たちにも話しましたが以下のことが非常に重要です。



「お」…押さないこと。(相手を転倒させてしまい、将棋倒しを誘発してしまいます)

「は」…走らないこと。(つまづいたり、ぶつかったり大怪我をして逃げられなくなってしまいます)

「し」…しゃべらないこと。(個々がしゃべると騒がしくなり、大切な指示が聞こえなくなります)

「も」…戻らないこと。(忘れ物を取りに戻るなど、煙に巻かれる可能性が高く、とても危険な行為です)

「ち」…近づかないこと。(突然火の勢いが増したり、急な爆発があったりすることもあります)



もう50年ほど前の記憶なので、自分自身恐ろしさも薄らいでしまっていますが、私が小学生の時に危ういことがありました。それは夏休みのことでした。家が果樹農家でしたので両親は朝食前に桃の収穫のために畑に出かけていました(甲州弁で“朝づくり”)。私はラジオ体操に行くために6時頃起きたのですが、お勝手(今で言う台所)の電気釜付近からモクモクと黒煙が上がっているではありませんか。よく見ると電気釜のコードはコンセントに差し込まれておらず、横にあったアイロンのコードがコンセントに差し込まれており、そのためアイロンの熱で木の床が黒くなって煙を上げていたのです。アイロンのコードをコンセントから抜き、あわてながらも3つ下の弟と茶碗にくんだ水を炭状態だった床に何回もかけて消火したことを覚えています。後から母に聞いたところによりますと、ご飯を炊くために電気釜のスイッチを入れたのだそうですが、コンセントにつながっていたのは電気釜ではなく、なぜか横にあったアイロンだったのです(電気釜の横にアイロンがあったことが問題ですが…)。母も早朝、薄暗かったり忙しかったりで、きっとあわてていたのでしょう。その後、母が明治生まれの祖父からひどく叱責されていたことを思い出します。子供心には火事になりかけたことよりも、そちらの方で心が痛みました。

子供たちには火災を自分事として受け止めてほしいのですが、あくまで訓練ですのでそれは難しいことでしょう。ただ、怖い思いをしてから気をつけるのでは手遅れになります。火を見かけることが少なくなってしまう現代ではありますが、暖房器具を使う冬季は特に火災に注意したいものです。